

## ラーニング・コモンズ (learning commons)



コクヨ ホームページ「日本大学法学部ラーニング・コモンズの事例」より

### ラーニング・コモンズ (文部科学省「用語解説」より)

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。

以下、文部科学省 平成25年 学術情報委員会(第3回) 配付資料

「資料1 学修環境充実のための学術情報基盤について(審議まとめ案)」

### 1 アクティブ・ラーニングと学術情報基盤整備との関係 (大学教育における課題認識)

近年、グローバル社会において、我が国が競争力を失う中で、様々な場において、教育改革の必要性に関する議論が行われているが、今後、我が国が国際競争力を高めていくためには、物事に主体的に対応できる人材の育成が重要であり、学士課程教育の質的転換など、大学における教育システムの改善は喫緊の課題となっている。

(中略)

## (アクティブ・ラーニング及びそのための学術情報基盤整備の必要性)

このような状況を踏まえ、平成24年8月の中央教育審議会の答申においては、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、**学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)**への転換が必要。」とされている。

(中略)

さらに、平成25年4月の第2期教育振興基本計画では、基本的考え方として、学士教育において、**アクティブ・ラーニング**や双方向型の授業を中心とした教育の質的転換のための取組を促進する。主な取組として、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、ICTを活用した双方向型の授業・自修支援など、学修環境整備への支援も連動させながら促進する。例えばICTの活用においては、大規模公開オンライン講座(MOOC)による講義の配信やオープンコースウェア(OCW)による教育内容の配信などへの各大学の積極的な参加を促すとなっている。

(後略)

## 2 アクティブ・ラーニングのための学術情報基盤整備の在り方

**アクティブ・ラーニング**の推進にあたっては、**学生の主体的なグループ学習等を実施するスペースとしての学習空間(ラーニングコモンズ)**の整備、効果的・効率的な自主学修を可能にするオンライン教育・教材の充実、それらを円滑に実施するための組織運営体制の構築が重要な要素として考えられる。

### (ラーニングコモンズの整備)

我が国の大学における**ラーニングコモンズ**の整備状況に関しては、平成23年5月1日現在で、**アクティブ・ラーニング・スペース**を整備している大学図書館の数は210館であり、設置数の推移を見ると3年間で約2倍となっており、スペースとしての設置は整備が進んできている。その機能については、**グループ学習スペース**や**プレゼンテーションスペース**、**可動式什器**などが主に用意されている。

**ラーニングコモンズ**の設置にあたっては、学習空間の確保に加え、必要な場合に活用できるコンテンツと学習を補助する人的サポートを有機的に連携させたスペースとして整備することが必要である。したがって、図書館を中心に設けるのが適切であるが、より多くのスペースを確保することが重要であることから、サポート体制等を連携させつつ、部局等において展開することも想定される。

(後略)